

よりやすいせき  
5. 寄安遺跡

所在地：坂井市春江町寄安地係

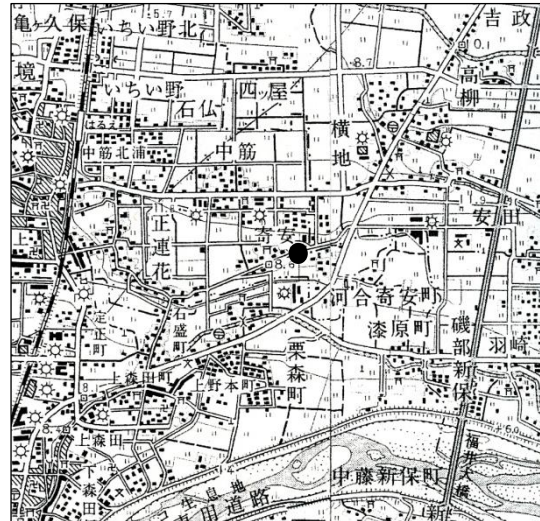
調査原因：北陸新幹線建設事業及び一般県道福井  
森田丸岡線道路改良工事

調査期間：平成 28 年 9 月 1 日～12 月 28 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：2,925 m<sup>2</sup>

時代：弥生時代後期末、鎌倉時代後期、室町時代前期



位置図 (S=1/50,000)

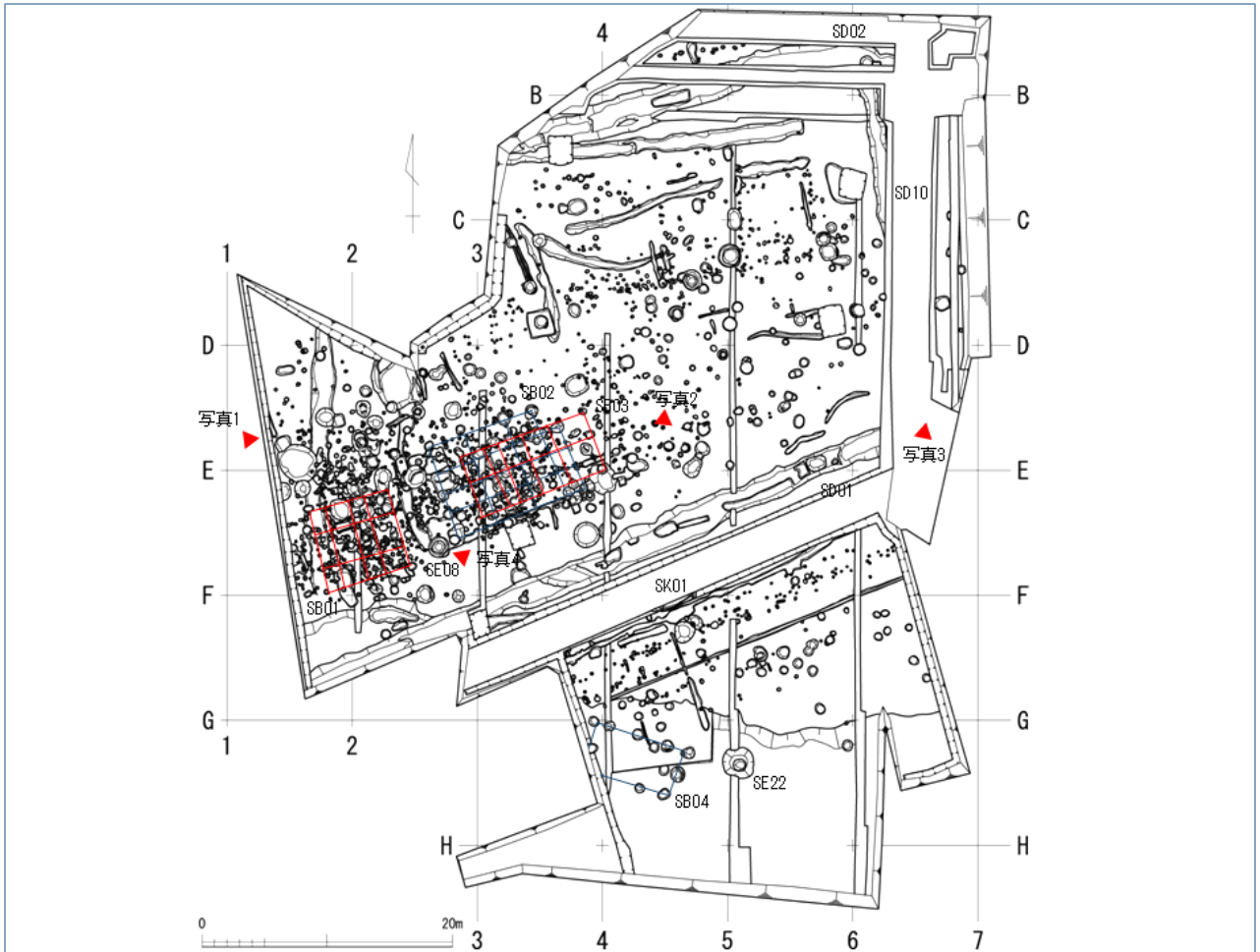
**調査の概要** 遺跡は坂井平野の南部に位置し、磯部川左岸の自然堤防上に立地しています。調査区の旧地形は、微高地と南端の低地からなり、南北へ向けて緩く傾斜します。土層は、調査区のほぼ全体に耕作土の黄灰色粘質土が堆積していました。次に微高地は、遺物包含層の暗黄灰色粘質土、地山である黄褐色粘質土又は砂質土、低地では埋土の暗青灰色粘土、地山である緑灰色粘土の順で堆積していました。

**遺構** 掘立柱建物 (SB) 4 棟、溝 (SD) 10 条、井戸 (SE) 23 基、土坑 (SK) 17 基、ピット (SP) 多数を検出しました。掘立柱建物やピットは調査区の中央から西側でまとまり、溝や井戸、土坑等は建物がまとまる範囲の周辺で多く検出しました。掘立柱建物 SB01～03 は、やや不整な形状ですが桁行 3～5 間で梁間 2～4 間程の総柱建物です。溝 SD01 に平行して北東から南西方向に棟を持ち、建替えや重複がみられます。溝 SD01・02 は同様な形状を呈し、北東から南西方向に並行してのびます。溝 SD02・10 は、調査区の北東端でほぼ直交しており、コの字状に区画された屋敷地境の溝と推察されます。井戸は素掘りのものが多く、井戸枠に石組みを持つもの 1 基、曲物積みのもの 6 基を検出しました。井戸 SE08 はやや大型で、井戸枠下部にこぶし大の河原石を 2～3 段積んでいました。また、曲物積み of 井戸では底付近に 1・2 段程度据えるものが多いが、井戸 SE22 は 4 段積みで最下段下位に基礎として木組みを設置していました。

**遺物** テンバコで 40 箱分が出土し、内訳は土器・陶磁器が 5 割強、木製品が 3 割、石製品が 1 割強からなります。土器・陶磁器は中世の土師質土器皿や越前焼等が中心であり、瀬戸美濃焼や青磁等を少量含みます。また、弥生時代後期末の土器もやや多く出土しています。木製品は漆器椀や箸、曲物、下駄等、石製品は粉挽臼や盤、行火、五輪塔、宝篋印塔等があります。遺物は包含層から 4 割、遺構から 6 割が出土し、特に溝 SD01・02 と井戸 SE08・22、土坑 SK01 等の他に多くのピットからもまとめて出土しています。

**まとめ** 遺構の時期は弥生時代後期末もありますが、鎌倉時代後期と室町時代前期が中心です。中世の二時期が重複しますが、遺構の分布状況からみて、溝で方形に区画して一面に建物群、周辺に井戸や土坑等を構築するという屋敷地の構造が明瞭にうかがえます。

(田中勝之)



第1図 調査区平面略図 (縮尺約1/600)



写真1 調査区北半全景 (西より)



写真2 掘立柱建物 SB02・03 (東より)



写真3 溝 SD01 (東より)



写真4 井戸 SE08 石組み (東より)